

2024年2月11日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第66巻第44号(通算3376号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

神様がすべての人と共におられる  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

<http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai>

【連絡先(牛田)】090-9161-4027

[kyuho-church@koinonia.or.jp](mailto:kyuho-church@koinonia.or.jp)

主任担任教師・牛田 匡 牧師

担任教師・水谷 憲 牧師

隠退教師・小林 達夫 牧師

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が  
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)

かんさいろうどうしゃでんどういいんかい こうだんこうかんれいはい  
**関西労働者伝道委員会デイ講壇交換礼拝**

こうたんせつ だい しゅじつれいはい  
**降誕節 第7主日礼拝**

《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたでも  
ご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜんそう もくとう  
前奏(黙祷)

ちよさくけんしやうめつ  
AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば  
招きの詞

ハガイ書 2章 5節

さんび か  
賛美歌

21-463番「わが行くみち」(©著作権消滅)

せいしょ  
聖書

ふくいんしよ  
ヨハネによる福音書 6章 1-15節

いの  
お祈り

さんび か  
賛美歌

21-198番「二ひきのさかなと」(©教団出版局)

メッセージ

「恵みに生かされ」(大阪大道教会)鈴木 貴博 牧師

さんび か  
賛美歌

21-536番「み恵みを受けた今は」(©教団讚美歌委員会)

しゅいの  
主の祈り

21-62番「天にいます 私たちの父」(©教団讚美歌改訂委員会)

ささげもの  
献げ物(\*)

はけん  
派遣

21-91番「神の恵みゆたかに受け」(1節のみ)(©JASRAC)

しゅくふく  
祝福

(大阪大道教会)鈴木 貴博 牧師

こうそう  
後奏

アーメン コーラス (21-40-6番)(©教団讚美歌委員会)

ほうこく  
報告

(4頁をご参照ください)

《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\*「献げ物(献金)」は参加費ではございません。

受付に献金箱がございます。ご用意のある方のみ、お献げください。

招きの詞 まね ことば ハガイ書 2章 5節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

あなたがたがエジプトを出たときに  
私があなたがたと結んだ<sup>a</sup>契約によって  
私の霊はあなたがたの中にとどまっている。  
恐れてはならない。

(脚注 a：直訳「言葉」)

聖書 ヨハネによる福音書 6章 1-15節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup>その後、イエスはガリラヤ<sup>b</sup>湖、すなわちティベリアス湖の向こう岸に渡られた。<sup>2</sup>大勢の群衆が後を追った。イエスが病人たちになさったしるしを見たからである。<sup>3</sup>イエスは山に登り、弟子たちと一緒にそこにお座りになった。<sup>4</sup>ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。<sup>5</sup>イエスは目を上げ、大勢の群衆がご自分の方へ来るのを見て、フィリポに言われた。「どこでパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」<sup>6</sup>こう言ったのはフィリポを試みるためであって、ご自分では何をしようとしているか知っておられたのである。<sup>7</sup>フィリポは、「めいめいが少しずつ食べたとしても、二百デナリオンのパンでは足りないでしょう」と答えた。<sup>8</sup>弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。<sup>9</sup>「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、それが何になりましょう。」<sup>10</sup>イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。それで、人々は座った。その数はおよそ五千人であった。<sup>11</sup>そこで、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。<sup>12</sup>人々が十分食べたとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい」と言われた。<sup>13</sup>集めると、人々が大麦のパン五つを食べて、なお余ったパン切れで、十二の籠がいっぱいになった。<sup>14</sup>人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来るべき預言者である」と言った。<sup>15</sup>イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、独りでまた山に退かれた。

(脚注 b：直訳「の海」)



## 《先週のメッセージより》2月4日 降誕節第6主日礼拝

「知らない人に癒されて」より

牛田匡牧師

聖書 ヨハネによる福音書 5章 1-18節

今回のお話は、38年間も病気で体が麻痺していた人が癒されたというお話でした。当時、病気はその人やその家族が罪を犯した結果だと考えられていましたので、この人は自分の身体が動かないことで、自身の不自由な境遇を嘆くだけではなく、自身の罪やまた家族の罪を責めたりしていたのではないかと思います。そんな彼が望みをかけてやって来たのが、癒しが起こると言われるベトザタの池でした。しかし、ここでも彼よりも先に他の人々が次々と癒されて行きましたから、彼の内心は先に癒された人たちを妬ましく思い、まわりの人たちに対する恨みつらみもかさんでいったのではないかと思います。ですから、彼の中には身体的苦痛だけではなく、「どうして自分ばかりが」という魂の奥底からの苦悩もありました。そんな彼にイエス様は目を留めて、語りかけられました。「起きて、床を担いで歩きなさい」。この言葉は「復活」も表わす言葉で、「起きる」「目を覚ます」という意味の言葉です。彼は「死んでいたのに生き返った」「腐っていたのに生き活きとし始めた」のでしょう。「あなたは生きることが許されている。自分や他人を責め過ぎたり、諦めたり腐ってしまったりせず、あなたは起き上がって、自分で歩いて行くことができる」。それがイエス様の伝えたメッセージだったのではないかと思います。

この人は何かの見返りに癒されたわけではなく、そもそもイエス様が誰なのかということも知らないままで癒されました。私たちは普段の生活の中で、周りの人たちをその肩書や能力で判断することが多くありますが、その一方で知らないうちに、知らない相手から、たくさんものを頂いている、ということもないでしょうか。相手の肩書とか能力とか、それらに関係なく、交わされる挨拶や笑顔、何気ない言葉など。実はそれらの数々が、私たちの心に火をともし、眠っていたのに目覚めさせ、死んでいたのに立ち上がらせ、倒れ伏していたのに癒す、ということが確かにあるのではないのでしょうか。早くも能登半島地震から1カ月が経ちました。被災地では、「自分に出来ることを」と言って、被災されながらも互いに力を出し合っておられる方々が多くおられるとのこと。私たちは受け続ける一方でも疲れてしまいますし、与え続ける一方でも枯渇してしまいます。互いに与え合い、担い合い、支え合うことを通して、私たちは互いに癒され合い、生かされて合って行く。そのことを心に留めて、私たちは今週もここから送り出されて行きます。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 2月4日 降誕節第6主日礼拝

礼拝出席 大人5名 献金 大人5,000円 中継視聴者数7回 感謝

◎次週 2024年2月18日(日) 受難節第1主日礼拝

招きの詞 ヘブライ書 4章15-16節

聖書 マタイによる福音書 4章1-11節

メッセージ 「人はパンのみにて生きるにあらず」牛田匡牧師

賛美歌 53番(©P.D.)、284番(©日本基督教団出版局)、408(©JASRAC)

今年のレント(受難節・四旬節)は、2月14日(水)から3月30日(土)までです。レントの期間は、イエス様の生涯や十字架の意味、イエス様に従うとはどういうことかについて考える時です。礼拝後に、釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」を行い、いこい食堂にお届けする予定です。どなたでもご参加ください。

◎お知らせ

- ・本日の礼拝は関西労働者伝道委員会講壇交換礼拝として、大阪大道教会(大阪市天王寺区)の鈴木貴博牧師が来られました。どうもありがとうございました。久宝教会からは水谷憲牧師が大阪大道教会に行きました。関西労伝への献金として、昨年2023年クリスマス献金の中から10,000円をお送りいたしました。
- ・これまでの「週報」や「メッセージ(全文)」は、ホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。それぞれの方が参加しやすい形で礼拝にご参加ください。
- ・先週の教会を考える会にて、2023年クリスマス献金について、下記のようにそれぞれの団体への献金額を決定して、献金致しました。どうもありがとうございました。①関西学院大学神学部後援会 10,000円、②日本基督教団部落解放センター 10,000円、③一般社団法人・神戸国際支援機構 25,000円、④生活困窮者支援(含・釜ヶ崎いこい食堂おにぎり支援) 10,000円、⑤パレスチナ・ガザ地区「アハリー・アラブ病院を支援する会」14,000円、⑥関西労働者伝道委員会 10,000円。
- ・2月17日(土)14時~16時半にかけて大阪クリスチャンセンターにて、公開講演会「今、福島で起こっていることと、過酷な被ばく体験の報告」が開催されます(主催:大阪教区核問題特別委員会)。講師は片岡輝美さんと菅野みずえさんです。事前申し込みは不要で、会場で直接対面参加いただける他、ZOOM可能です。下記のQRコードから、もしくはミーティングID:860 9850 8354 パスコード 423499を直接ご入力してご参加ください。



◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
2/18	牛田匡牧師	おにぎり支援
2/25	水谷憲牧師	誕生者祝福式
3/3	牛田匡牧師	ユーカリスト・教会を考える会
3/10	水谷憲牧師	

核問題特別委員会 公開講演会

**今、福島で起こっていることと 過酷な被ばく体験の報告**

日時: 2024年2月17日(土) 午後2時~4時30分  
会場: 大阪クリスチャンセンター 大阪市中央区玉造2-26-47  
Zoom 配信併用(申し込み不要)  
ミーティングID 860 9850 8354  
パスコード 423499  
QRコード

講演: 片岡輝美  
「あとに続くいのちのために ~子ども脱被ばく裁判と汚染水海洋投棄から考える~」

  
会津放射能情報センター 代表  
片岡輝美は、会津若松市在住。日本基督教団若松聖公会  
福島県生まれ、会津若松市在住。日本基督教団若松聖公会  
員。これ以上働かすな!市民会議メンバー、労働者が継続  
闘争イカル事業廃止を求める裁判の原告でもある。

  
講演: 菅野みずえ  
「浪江町津島での被ばく体験」

原発賠償関西訴訟原告  
東電福島第一原発事故の放射能汚染により、福島県浪江町津島から避難。  
現在、浪江町津島に暮らし、福島の仕事に携わり35年、事故で人生が  
変わってしまった。「原発がある限り、私の身に起こったことはいつか  
あなたのことになる。」

主催 大阪教区核問題特別委員会  
問い合わせ: 山崎知行 090-1899-0475